

人類共栄 大乘道の御救い



発行所
京都市左京区
吉田神楽岡町3
世界救世教明教会
郵便番号606-8311
電話075(771)2322

本教が宗教として、既成宗教並に見られているのは致し方ないとしても、実は既存宗教とは比較にならない程の著しい異いさのある事である。第一本教には、神道も仏教もキリスト教も、哲学も科学も芸術も包含されて居り、又左派も右派も、資本主義も社会主義も共産主義も勿論包含されている。之等は本教が発行する書籍、雑誌、新聞等をみれば何人も背くであろう。

本教の礼拝する御神体と称するものは、光明如来の文字である。如来という以上仏名であるに拘らず、それを御神体と呼ぶ。而も祝詞にして且つ梵文である薄言讃詞と称するものを奉誦するが、之は私が作ったもので、祝音経を出来るだけ圧縮し、祝詞の形式にしたものである。どういう訳かという、祝音経を奏げるには、三十分以上を要し、日本の今日の社会生活には適合しない。どうしても毎朝の礼拝は五分以内で済ませなければ、電車事故などあった場合、動先が疎かになるという懸念もあるからである。

又私の幾多の説には、凡ゆる宗教の滋味、



明主様御真筆 福寿無量

明主様の御教え

第三宗教

各面の内容

- | | |
|------|-------------------|
| 1、2面 | 初代会長先生 御教えの研鑽 |
| 3、4面 | 多田敬恵会長先生教誨 |
| 5面 | 多田光史第5代会長先生 就任ご挨拶 |
| 6面 | 祖霊大祭 |
| 6、8面 | お蔭ご奉告 藤田建雄 |
| 8面 | れいめい俳壇 |

天文、地文、言霊、易经、哲学、文学、政治、経済、芸術、霊界談義から演劇映画に渉ってまで書くので、人は驚くのである。特に神示の霊医学や、神霊の発揮に至っては、古往今来世界に類例をみないと言われている。之は本教に限って信徒に病者の極め

て少い事実によつてみても明かである。其他人事一般に渉って、如何なる難問疑問でも氷解され得るのである。

そうして本教に於ては戒律があつて無きが如く、善悪無差別の救済であると共に、半面善悪は厳として犯すべからざる建前となつて居る。又本教は大乗道であるから、資本主義によつて産業は興隆され、社会主義によつて分配の偏頗は是正され、共産主義によつて人民の大多数を占める労働階級の福祉は増進され、民主主義によつて特権階級の発生は防遏されるとしており、徳望によつてのみ自然的に階級が出来、一切は世界的、人類愛的の思想が根幹をなし、人類共栄の大理想を活動の主体としているのである。勿論本教に於ては、深遠なる宗教哲学も説くと共に大衆にアツピールして、宗教即生活を唱え、実生活を信仰化する事に力を尽している。従而本教には既存宗教の如き窮屈さもなく、宗教的形式はあまり重きを置かない。実に自由主義的民主的で明瞭そのものといえよう。勿論祭典の如きも頗る簡素で、現代生活によく適合しているのである。

特に一言したきは、本教に於ては奇蹟が断然多い事である。恐らく此様な宗教は歴史上其比を見ないであろう。

以上は極略の説明であるが、要するに従来の宗教史観では到底理解なし得ない事で、本教を称して第三宗教という所以である。(説五二)

これからの世界をリードする

明主様の御救いは
全てを包含した
新しい思想・科学

難しいわけではございませんけれども、今までの私達が考へていたような宗教という部分も本教の中に含まれてはいるけれども、それが全てではない、ということでございます。今までにない、もっと新しい救いであり、新しい思想であり、これからの、いわば21世紀、これからの世の世界をリードしていくべき、そういう今までのない存在であるわけでございます。明主様がここに仰つておられますように、思想であり、科学であり、一切のものが含まれてい

初代会長
多田 光行

『自説説話集』という御神書の中に『第三宗教』という御教えをお説き頂いております。この『第三宗教』という御教えは、最初1949(昭和24)年6月18日に、当時の機関紙「光」13号に御発表下さった御教えでございます。明主様は、本教は今までの私共が考へていたような宗教ではないと仰つておられるわけでございます。もちろん、宗教という言葉自体の意味が色々に解釈されておりますので、その点も大変

一番大切なことは 礼拝の形式よりも 神様に対する想念

一冊からの書き

るわけでございます。

もちろん、今までのいわゆる宗教も含まれているわけですが、神道も仏教もキリスト教も全て含まれているわけでございます。世界的に本当に明主様の御救いを真面目に真剣に理解しようという方がだんだん増えてきていると思うのです。これは、一つには明主様の御救いが、今までのような宗教に留まるのではなくて、もっと大きな御救いであるからです。だから、あらゆる世界中の方々が受け入れられる御救いであるわけです。ある意味では仏教よりも、むしろそういう方達の方が明主様の御救いを大きな御救いとして、だんだん受け取って下さっていると思います。

この御救いの中で、明主様は、在来の色々な宗教形式の事を仰っておりますけれども、この形式については、明主様は、あまり細かいことにはとらわれておられません。明主様が、いつも仰っておられたのは、礼に失するといふか、心です、神様に対する気持ち、

本当に神様を尊敬させていただく、崇敬、敬わさせていただく気持ち、これを忘れてはいけないということでございます。その気持ちを持ちつつあり、現れる形は色々あるわけです。今、教会でさせていただいている形は、どちらかと言えば日本の場合の形ですね。日本では登の方が集まって参拝させていただきやすいということがあって、今の形式になつておりますけれども、外国の教会になれば、何もそれにこだわらなければならないわけでございませう。ですから形は二の次の事なので、基本的には礼に失しないということが一番根本であります。なまじ習慣に押し流されてしまうというようなことではいけないわけです。

祝詞というのは、私共の感謝の気持ちと、気が付かないで神様の御心に反した過ちを少しでもお詫言わせていただく、犯した罪に対する結果の懺り、罪を浄めていただくというところが、祝詞でございます。明主様から、祝詞で日々的小さい、そういう色々な罪を浄めていただけているという事を教えていただいているわけでありまして、その祝詞をまず参拝させていただいて、それから御讃歌ですね。御讃歌は靈界を浄めさせていただくわけでございます。その後明主様の御救いの御言葉、魂に頂いて、それから御静慮です。

世界的な幹
は愛の根
一切人類
思想が

神をそれぞれが信じて
湧き起こった気持ちで
世の中を良くしていく

それが私達の進むべき方向

ね。これが今の教会の朝拝の形にさせていただいておりますが、これでもいい、御教への長さによりますけれども、だいたい20分位になるんでしようかね。夕拝の場合は今申し上げた7、8分くらいだと思います。ことに私の場合は教会ですから、時間はだいたいそれくらいでしら問題無いと思っておりますので、礼拝は現在のような形で一応させていただいているわけでございます。

一番大切なことは、形よりもその時の心、神様に対する想念でございます。それが一番大切なわけでございます。それがいい加減な気持ちでさせていただいていたのでは、いくらお辞儀がもつともらしくさせていただいていても、これは意味が無いということになります。それはいい加減な気持ちでいうことではないです。まあ、全く無いということではないです。まあ、非常に逸れてしまうということになります。

その次に、明主様の説かれたことはあらゆる分野に涉つてのこととでございます。もちろんその中の根幹には、医学に関する御教、浄霊に関する御教、いわゆる神霊界についての御教、戒律と云うのは、まあ、明主様は、戒律と云うのはあまり仰ってないわけですね。もちろん人間は、人を苦しめたりして、それでいいはずはないのでありまして、善悪とい

うことは非常に大切なことであります。けれども、一面において、そういう今までの宗教でよく言われている戒律と云うことは、明主様はあまり仰っていません。それよりも自分で湧き出る気持ちでもってさせていただくということが大事であるわけなんです。例えば、こういうことをやたら罰があたると、人を苦しめたりするもので、悪いこと、人を苦しめたりするものではないこと、人を苦しめたりするものが湧かないような気持ち、少しでもこの世の中のために、皆の幸せのために役立たせていただくという気持ちが自然に湧き起こってくるようになるのが本当だということを明主様は、仰っておられるわけでありませう。

それからここに、色々な世の中にある主義・思想の役割について仰っております。思想に「徳望によつてのみ自然的に階級が出来、一切は世界的、人類愛の思想が根幹をなし」と仰っております。もちろん人間と云うのは皆、神様の子供であり、平等であるわけですから、けれども、その平等の中に、やはり魂の本当に浄まった人、本当に徳望があるという人、そういう本当の魂の浄まり、魂の高さによる差と云うものは出てくるわけでありませう。人間の中にも、いい加減なことをやっている人と、一生懸命世の中の人のために役立つと云う努力している人と、これ

は自ら選んでくるはずなので、階級を無理に作るというのではなくて、自然にある人は立派な人だからと言って皆から尊ばれるというようになってくるわけですね。これが本当の世の世界のあり方になるわけでございます。

明主様の御教の一番根幹は、そういう世界愛、人類愛の心であるわけですね。『人類共栄の大理想を活動の主体として』それであり、非常に深い宗教哲学が、一番根幹にあるわけですね。しかも、私共の日々の生活の中で『宗教即生活』を唱え、実生活を信仰化する事に力を尽して、それが決して今までの宗教にあるような、そういう窮屈とか形式にとられるとかいうことではないわけですね。本当に、神をそれぞれが信じて、いわゆる戒律と云うのではなくて、湧き起こった気持ちで、少しでもこの世の中を良くしていくというのが、明主様の御教であり、これからの私共人間の進むべき方向ということが申し上げられると思ひます。

そして最後にありますように奇蹟が多いわけでございます。これは今までの宗教にも奇蹟はあつたけれども、私共は奇蹟を通じて直接一人一人が神様の御心に触れさせていただくことができるわけですね。これが明主様の御救いの一番根幹であると存じます。

私共は、よく枝の事にとらわれることがございます。けれども、そういう時に、私共は常に御教に戻つて、明主様の本当の御教とはどういふものなのかといふことを、私共自身がしっかりと身につけていただいて、それを実際に実現させていただくことが非常に大切だと思ひます。世間で私共のことを、色々仰る方がおられますけれども、そういうことは、結局私共がちゃんとお伝えできていないからそういうことになつてしまふわけでございます。明主様の御教は、決して世間の人が仰るような宗教と同じようなことを仰っているのではないわけでございます。

多田歌恵会長先生教会葬

2022年8月18日感謝祭
2022年8月18日の感謝祭の即教へご同様の後、多田光史先生は多田歌恵会長先生が8月12日に帰られたこととお話され、ご帰国当日までの様子や信長の方々への感謝を述べられました。続いて、小林先生より今後は多田光史先生が黎明教会の第5代会長の御用を務められることのご報告がありました。小林先生は「現在、京都大学大学院農学研究科の博士課程にご在席で、多忙な多田光史会長先生を信長皆様でお支えし、地上天国建設のため御用に邁進させていただきたいと思っております」とお話されました。その後、再び多田光史先生が登壇され、会長就任のご挨拶をなさいました。(3面参照)



美しい花々で彩られた祭壇。教会事務主の小林先生によるみり始めのご挨拶

8月20日通夜祭 21日告別式
延べ900名が参列

天津祝詞を奏上される参列者



多田歌恵会長先生の功績偲ぶ

御葬を述べられる多田光史次代会長先生



2022年8月12日、多田歌恵会長先生(以下、会長先生)がご帰られました。黎明教会の第4代・第5代会長として、信長一人一人の言葉に目を凝らして聴き、ご遺志をいまだに会長先生は御葬での御用に入られることになりました。

8月20日通夜祭、21日に告別式が、黎明教会の教務所として執り行われました。斎場となった黎明ホール(2階)をされたご遺影を中心に、美しく飾られた花々で彩られた祭壇が設けられました。また、斎場全体も信徒の方、外部の先生や団体からの献花でいっぱいになりました。黎明ホール(2階)も教会別館、研修所、新・旧集会所にも参拝場所が設けられました。

告別式は、教務委員長の如畑昌雄様、教務代表として寺岡直美先生、信長代表として男天委員長の伊吹克也様が挨拶を述べられました。

加瀬先生は、御大初代会長先生の跡を継がれた重臣、そして果田会長先生の御葬により再会がなされたご遺志を思い願われました。また、黎明教会の大きな要



▲通夜祭で献花される参列者

黎明教会第5代会長就任ご挨拶

多田光史



第5代会長に就任され、ご挨拶をされる多田光史会長先生

明主様の尊い御教えを固く守らせて頂き

御教えの絶えざる研鑽

無施肥無農薬栽培の調査研究

英訳御神書の頒布

この3つに特に注力し

より一層御神業にお使い頂けるよう
努力精進をお誓い

多田光史でございます。この度、黎明教会の第5代会長に就任いたしました。ご挨拶申し上げます。この黎明教会という教会は、勿論、明主様の御教えを固く守らせていただくことが第一です。その上で、御教えを世に広げ、多くの人々に御教えを伝えることが私たちの使命です。そのために、御教えの研鑽、御神書の英訳、そして無施肥無農薬栽培の調査研究に取り組んでいます。

まず、御教えの研鑽について。御教えは、明主様の御教えであり、それは永遠に変わらぬ真理です。私たちは、御教えをしっかりと学び、心に留め、日々の生活に活かすことが大切です。そのために、御教えの研鑽に努めます。御教えの研鑽とは、御教えの奥義を深く理解し、その精神を体得することです。そのためには、御教えをしっかりと学び、心に留め、日々の生活に活かすことが大切です。

次に、御神書の英訳について。御神書は、御教えの根本であり、私たちの信仰の基盤です。しかし、御神書は古語で書かれており、現代の人々には理解が難しい場合があります。そこで、御神書を現代語に英訳し、多くの人々に御教えを伝えることが私たちの使命です。そのために、御神書の英訳に取り組んでいます。

最後に、無施肥無農薬栽培の調査研究について。御教えには、自然の恵みを大切にし、自然と調和して生きるという教えがあります。そのために、無施肥無農薬栽培の調査研究に取り組んでいます。これは、御教えの精神を体得し、実践することです。そのためには、御教えをしっかりと学び、心に留め、日々の生活に活かすことが大切です。

以上、ご挨拶申し上げます。御教えの研鑽、御神書の英訳、そして無施肥無農薬栽培の調査研究に取り組んでいます。そのために、御教えをしっかりと学び、心に留め、日々の生活に活かすことが大切です。そのために、御教えの研鑽に努めます。御教えの研鑽とは、御教えの奥義を深く理解し、その精神を体得することです。そのためには、御教えをしっかりと学び、心に留め、日々の生活に活かすことが大切です。

2022年8月15日

